



肯定的に生きる

「ちよつと大袈婆だが…」

先日、会社勤め時代の知人が二人亡くなった。二人とも技術系の人で職場は違ったが、一人は長く組合役員をともにした仲間であり、葬儀に出席した。

久しぶりに山口放送時代の仲間と会ったが、ほとんどが七十歳を超えている。四十年以上、一緒に働きたら日ごろは全く交流もなく、葬儀の時に会おうというのは寂しい限りだ。

とにかく自分も死に近づき、残り時間が少なくなつたことは厳然たる事実である。最近思うことは、これからこの世を離れるまでの時間を輝いて生きたいということだ。別の表現をすれば物ごとのすべてを肯定的に受け止めて前向きに生きたいと思う。

私には年老いたという実感がほとんどない。確かに体力的には衰えているが、精神的

にはそんな気持ちにならない。一つには妻が病気の後遺症のため歩行が多少困難でデイ・サービスに週二回通うので、私家事をほじめるいろいろすることも多く、老いたなんて言っておれないという面もある。その意味では妻の病も恵みである。妻も気持ちは前向きで、次回から再び書く「被災地・岩手県大槌町ボランティア」にも一緒に参加した。年齢的には老いても気持ちの持ち方で若くもなる。キリスト教信仰は死

ですべてが終わりではなく、死んでも新しいのちとして復活し、永遠のいのちに生きるということ。物ごとを肯定的に受け止められるのは、この信仰に起因しているかもしれない。

ややもすれば人と人との関係ばかりに目奪われがちだが、自然

の営み、例えば庭に咲くクリスマスローズをはじめ一つ一つの花に目を向ける心のゆとりが、物ごとを肯定的前向きに受け止めることにつながる。そこに神の息吹きを感じるからだ。

ところで先日夕方、近くのスーパーで

買った物を見ていた時、私を見つめる視線を感じた。視線の主は子ども連れの若い奥さん。私と目が合うと「いつも記事を楽しみに読ませてもらっています」「えっ、どうして私がおったのですか」「記事の中で顔写真で」

若い女性から見詰められ、声を掛けられたことなどもう何年も、いや初めてで動揺した。顔がはつきりわかる写真は多分、クルーズのチョウネクタイでの正装写真だろう。妻は「これからはチョウネクタイの正装でスーパーに買い物に行かなくては」と笑う。声を掛けてくれた女性のために今回も上海・濟州島クルーズの正装写真を掲載しよう。みすばらしいスーパーの買い物老人も変わるものだと笑ってもらう。

肯定的とは、まじめで息苦しいようなもので



クリスマスローズは我が家の庭が好きらしい

ただでなく、ユーモアに富み、人生を楽しむこともあってもよい。人の悲しみには同情するが、良いことや本人のうれしいことには嫉妬心を持ち、無視する傾向が自分の中にある。

若い奥様、声を掛けて下さりありがとうございます。もう一つうれしかったこと、お世話になつた人に自分で焼いたケーキを届けると昼食に誘われた。特別のごちそうではない。それがうれしい。日常のありのままに友と交わりたい。自分が肯定的になれば周囲もそうなる。そう、毎日が巡礼、聖地は生活の中にある。

気分転換、馬子にも衣装も悪くない

